



2021年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年10月7日

上場会社名 マックスバリュ西日本株式会社 上場取引所 東
 コード番号 8287 URL http://www.maxvalu.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 平尾 健一
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理担当 (氏名) 伊渡村 直樹 TEL 082 (535) 8500
 四半期報告書提出予定日 2020年10月12日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2021年2月期第2四半期の連結業績（2020年3月1日～2020年8月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年2月期第2四半期	284,616	5.3	4,296	431.4	4,525	385.9	2,647	—
2020年2月期第2四半期	270,341	95.4	808	△30.9	931	△29.8	△136	—

(注) 包括利益 2021年2月期第2四半期 3,618百万円 (—%) 2020年2月期第2四半期 △1,781百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年2月期第2四半期	50.42	50.37
2020年2月期第2四半期	△2.60	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年2月期第2四半期	256,023	100,947	39.4	1,921.10
2020年2月期	265,429	99,353	37.4	1,890.06

(参考) 自己資本 2021年2月期第2四半期 100,896百万円 2020年2月期 99,229百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年2月期	—	0.00	—	38.00	38.00
2021年2月期	—	0.00	—	—	—
2021年2月期（予想）	—	—	—	38.00	38.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年2月期の連結業績予想（2020年3月1日～2021年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	550,000	1.3	5,500	100.5	5,700	79.7	1,000	—	19.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年2月期2Q	52,533,554株	2020年2月期	52,513,854株
② 期末自己株式数	2021年2月期2Q	13,507株	2020年2月期	13,379株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年2月期2Q	52,503,122株	2020年2月期2Q	52,495,480株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(参考)個別業績の概要

1. 2021年2月期第2四半期の個別業績(2020年3月1日~2020年8月31日)

(1) 個別経営成績(累計)

(%表示は対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年2月期第2四半期	139,109	7.5	2,075	—	2,217	931.5	1,361	—
2020年2月期第2四半期	129,386	△6.4	65	△94.8	214	△84.8	△54	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年2月期第2四半期	25.93	25.91
2020年2月期第2四半期	△1.05	—

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年2月期第2四半期	145,584	98,144	67.4	1,867.73
2020年2月期	143,405	99,860	69.6	1,900.81

(参考) 自己資本 2021年2月期第2四半期 98,093百万円 2020年2月期 99,793百万円

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) キャッシュ・フローに関する説明	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2020年3月1日から2020年8月31日)のわが国経済は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、経済活動並びに個人消費が制約され、景気は急速に減速いたしました。緊急事態宣言解除後、飲食店やサービス施設などは部分的に営業を再開し経済は徐々に動き出しておりますが、依然として感染拡大の不安や懸念は大きく、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループはお客さまならびに従業員の安全・安心を最優先に地域のお客さまの「食」を支えることを使命として、営業面では店舗出入口にアルコール消毒液の設置、従業員の毎日の体調確認とマスク着用ならびに非接触型検温器の設置、またレジまわりへの飛沫防止シートの取り付け、お客さま同士のソーシャルディスタンス確保の呼び掛けといった店舗でのあらゆる感染防止対策を講じながら営業してまいりました。また、4月7日の緊急事態宣言発出以降、お客さまの「密」を避けるため兵庫県エリアでのチラシ配布を中止、その後宣言エリアが全国へと拡大以降5月末までの間全店で中止いたしました。

商品面におきましては、お客さまの「食」に対する行動様式は大きく変化し、外食を控え家庭内で調理をする「内食」需要が増加したことで野菜、鮮魚、畜肉といった生鮮食料品をはじめ、冷凍食品やインスタント食品など簡便調理商品の販売点数が伸びました。また年度方針である「基本の徹底」を柱として、旬商品や売れ筋など重点商品のダイナミックな売場展開による販売点数の拡大、「地元の味」にこだわった地域・地場商品の品ぞろえ拡大に取り組みました。

新規出店としましては、前四半期にオープンいたしましたマックスバリュ小月店(山口県下関市)、マルナカ川内店(愛媛県東温市)に引き続き、株式会社マルナカ(以下「マルナカ」)では7月29日にマルナカ円座店(香川県高松市)、株式会社山陽マルナカ(以下「山陽マルナカ」)では6月11日に山陽マルナカ三田店(兵庫県三田市)をオープンいたしました。

一方で、効率的な店舗網を構築するために、前四半期に閉店いたしましたマックスバリュエクスプレス大州店(広島市南区)、マックスバリュ西条御条店(広島県東広島市)、マックスバリュ光店(山口県光市)に引き続き、マックスバリュ西日本株式会社(以下「マックスバリュ西日本」)では8月30日にマックスバリュ高瀬店(香川県三豊市)、マルナカでは6月24日にマルナカ伏石店(香川県高松市)、7月5日にマルナカ円座店(香川県高松市)、8月23日にマルナカ松前店(愛媛県伊予郡)、8月30日にマルナカ高瀬店(香川県三豊市)を閉店いたしました。

既存店のリニューアルとしましては、前四半期にリニューアルいたしました山陽マルナカ新倉敷店(岡山県倉敷市)、山陽マルナカ太子店(兵庫県揖保郡)、山陽マルナカ美作店(岡山県美作市)、山陽マルナカ一宮店(岡山市北区)に引き続き、マックスバリュ西日本では7月11日にザ・ビッグ庄原店(広島県庄原市)、山陽マルナカでは6月19日に山陽マルナカ院庄店(岡山県津山市)、6月29日に山陽マルナカ郡店(岡山市南区)、7月11日に山陽マルナカ可部店(広島市安佐北区)の活性化を実施いたしました。

環境保全、社会貢献活動の取組みとしましては、当社グループでは使い捨てプラスチックの削減と資源の持続可能な調達への取組みを加速するため、2020年3月1日より全店の食品フロアにおけるレジ袋、6月1日より全売場のレジ袋の無料配布を終了いたしました。一方、レジ袋をご希望のお客さまには、有料にてバイオマス原料配合の環境配慮素材のレジ袋を提供しております。マックスバリュ西日本では、その2019年度収益金724万8,240円を地域の環境保全活動にお役立ていただくため、店舗所在の各自治体や団体に贈呈させていただきました。マルナカでは、レジ袋無料配布終了に合わせ「マルナカオリジナルマイバッグ」プレゼント企画を実施いたしました。

「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」の取組みでは、3月度を復興応援への特別企画として実施期間を3月9日から11日までの3日間に拡大し、お客さまにご投函いただいた黄色いレシートの合計金額の1%を「平成30年7月豪雨」で被災された広島県、岡山県、愛媛県の3県と、東日本大震災の被災地である東北に義援金として贈呈し、復興支援に役立てていただいております。また、「平成30年7月豪雨」で被災した山陽マルナカ真備店(岡山県倉敷市)の被災から再建までの取組みをパネル展として企画し、下中野店にて展示開催いたしました。このパネル展は一人でも多くのお客さまに防災への心構えをお忘れにならないようにとの思いを込めて企画いたしました。

当期においては、コロナ禍の「密」を避けるため、当初より企画していた障がい者スポーツ大会やスポーツ教室などの各種イベントを余儀なく中止することとなりましたが、これらの取組みを継続してご紹介するためのパネル展を、山陽マルナカ下中野店、美作店、山陽マルナカ本社にて実施いたしました。

このような取組みの結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高2,802億1百万円(前年同期比5.4%増)、営業収益2,846億16百万円(同5.3%増)、営業利益42億96百万円(同431.4%増)、経常利益45億25百万円(同385.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は26億47百万円(前期1億36百万円の四半期純損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ82億36百万円減少し、648億45百万円となりました。これは主に、現金及び預金が14億73百万円増加した一方、商品が12億13百万円、関係会社預け金が50億円それぞれ減少したことによるものです。固定資産は、前連結会計年度末に比べ11億69百万円減少し、1,911億77百万円となりました。これは主に、投資その他の資産が7億75百万円増加した一方、有形固定資産が19億54百万円減少したことによるものです。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ81億58百万円減少し、991億84百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が72億55百万円減少したことによるものです。固定負債は、前連結会計年度末に比べ28億41百万円減少し、558億91百万円となりました。これは主に、長期借入金が12億16百万円、役員退職慰労引当金が1億41百万円それぞれ減少したことによるものです。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ15億94百万円増加し、1,009億47百万円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金が9億3百万円増加したことによるものです。

(3) キャッシュ・フローに関する説明

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、前年同四半期に比べ88億95百万円減少し、298億39百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の営業活動により獲得した資金は48億78百万円(前年同四半期連結累計期間は231億51百万円の獲得)となりました。これは主に税金等調整前当期純利益の計上、41億21百万円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の投資活動により使用した資金は46億6百万円(前年同四半期連結累計期間36億50百万円の獲得)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出47億89百万円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の財務活動により使用した資金は37億97百万円(前年同四半期連結累計期間は104億46百万円の使用)となりました。これは主に、配当金の支払額19億95百万円によるものです。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年2月期通期連結業績予想につきましては、2020年4月10日に公表いたしました予想を修正しております。

詳細につきましては、本日公表しております「業績予想の修正及び特別損失計上に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	28,365	29,839
受取手形及び売掛金	1,779	1,637
商品	21,441	20,228
貯蔵品	182	220
関係会社預け金	5,000	—
その他	16,312	12,919
流動資産合計	73,081	64,845
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	61,342	59,936
土地	81,690	81,398
その他(純額)	15,274	15,017
有形固定資産合計	158,307	156,352
無形固定資産	159	168
投資その他の資産		
投資有価証券	12,371	13,779
その他	21,509	20,876
投資その他の資産合計	33,880	34,656
固定資産合計	192,347	191,177
資産合計	265,429	256,023
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	57,917	50,662
短期借入金	2,720	2,500
1年内返済予定の長期借入金	21,712	21,429
未払法人税等	1,024	1,828
賞与引当金	1,756	2,322
役員業績報酬引当金	52	41
店舗閉鎖損失引当金	98	69
損害補償損失引当金	6	—
設備関係支払手形	1,049	629
その他	21,004	19,701
流動負債合計	107,342	99,184
固定負債		
長期借入金	40,357	39,140
店舗閉鎖損失引当金	4	27
退職給付に係る負債	1,378	1,308
役員退職慰労引当金	197	56
資産除去債務	5,966	5,952
その他	10,829	9,405
固定負債合計	58,733	55,891
負債合計	166,076	155,075

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,705	1,718
資本剰余金	60,017	60,073
利益剰余金	32,098	32,750
自己株式	△17	△17
株主資本合計	93,804	94,525
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,917	6,820
退職給付に係る調整累計額	△492	△450
その他の包括利益累計額合計	5,424	6,370
新株予約権	66	50
非支配株主持分	57	—
純資産合計	99,353	100,947
負債純資産合計	265,429	256,023

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
売上高	265,878	280,201
売上原価	200,967	210,590
売上総利益	64,910	69,611
その他の営業収入	4,463	4,415
営業総利益	69,373	74,026
販売費及び一般管理費	68,565	69,729
営業利益	808	4,296
営業外収益		
受取利息	7	2
受取配当金	171	163
その他	120	201
営業外収益合計	299	368
営業外費用		
支払利息	115	101
遊休店舗地代	6	5
その他	55	32
営業外費用合計	176	139
経常利益	931	4,525
特別利益		
固定資産売却益	4	132
損害補償損失引当金戻入額	59	—
受取保険金	91	—
投資有価証券売却益	—	127
特別利益合計	155	259
特別損失		
固定資産除却損	18	13
固定資産売却損	2	1
減損損失	190	553
店舗閉鎖損失	11	29
店舗閉鎖損失引当金繰入額	11	60
投資有価証券売却損	—	3
退職給付制度終了損	742	—
特別損失合計	977	662
税金等調整前四半期純利益	109	4,121
法人税、住民税及び事業税	411	1,458
法人税等調整額	△153	△9
法人税等合計	257	1,449
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△147	2,672
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△11	25
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△136	2,647

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△147	2,672
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,663	903
退職給付に係る調整額	30	42
その他の包括利益合計	△1,633	945
四半期包括利益	△1,781	3,618
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,770	3,592
非支配株主に係る四半期包括利益	△11	25

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	109	4,121
減価償却費	5,006	5,129
減損損失	190	553
のれん償却額	36	0
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△123
固定資産除却損	18	13
固定資産売却損益(△は益)	△1	△130
受取保険金	△91	—
店舗閉鎖損失	11	29
賞与引当金の増減額(△は減少)	△204	566
役員業績報酬引当金の増減額(△は減少)	△9	△11
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	△22	△5
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	875	△7
退職給付制度移行に伴う未払金の増減額(△は減少)	—	△1,429
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△33	△141
受取利息及び受取配当金	△179	△166
支払利息	115	101
売上債権の増減額(△は増加)	△104	142
たな卸資産の増減額(△は増加)	47	1,175
仕入債務の増減額(△は減少)	19,298	△7,255
未払消費税等の増減額(△は減少)	496	164
未払金の増減額(△は減少)	1,294	△246
未収入金の増減額(△は増加)	△4,524	2,375
その他	1,642	533
小計	23,973	5,389
利息及び配当金の受取額	176	164
利息の支払額	△111	△98
法人税等の支払額	△977	△576
保険金の受取額	91	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	23,151	4,878
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△4,550	△4,789
有形固定資産の売却による収入	16	330
無形固定資産の取得による支出	△3	△21
差入保証金の差入による支出	△131	△162
差入保証金の回収による収入	249	327
預り保証金の受入による収入	84	95
預り保証金の返還による支出	△358	△164
投資有価証券の売却による収入	—	189
事業譲渡による収入	1,561	—
関係会社貸付金の回収による収入	7,200	—
その他	△418	△412
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,650	△4,606

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△997	△1,995
短期借入金の増減額(△は減少)	△3,534	△220
長期借入れによる収入	6,350	10,400
長期借入金の返済による支出	△12,235	△11,899
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△40
その他	△28	△43
財務活動によるキャッシュ・フロー	△10,446	△3,797
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	16,355	△3,526
現金及び現金同等物の期首残高	16,475	33,365
株式交換に伴う現金及び現金同等物の増加額	5,903	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	38,734	29,839

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(連結子会社の吸収合併)

当社は、2020年10月7日開催の取締役会において、2021年3月1日を効力発生日として、当社の連結子会社である株式会社マルナカ及び株式会社山陽マルナカを吸収合併することを決議し、同日付で合併契約を締結いたしました。

1. 取引の概要

(1) 被合併企業の名称及び事業の内容

被合併企業の名称	株式会社マルナカ	株式会社山陽マルナカ
事業の内容	スーパーマーケット事業	スーパーマーケット事業

(2) 合併日（効力発生予定日）

2021年3月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社を存続会社、株式会社マルナカ及び株式会社山陽マルナカを消滅会社とする吸収合併

(4) 結合後企業の名称

マックスバリュ西日本株式会社

(5) その他取引の概要に関する事項

当社を存続会社、マルナカ及び山陽マルナカを消滅会社とする吸収合併を行うことにより、デジタル改革や物流改革、経営効率化を更に推し進め、お客さまにより一層価値ある商品・サービスの提供が実現できるものと判断いたしました。

本合併により、相互の経営資源・ノウハウを活かしつつ、3社共通の理念である「地域密着型経営」を更に深化させることで、中四国エリアでお客さまと共に歩み続けるリージョナルSM企業を目指してまいります。

2. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 2019年1月16日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日）に基づき、共通支配下の取引として処理する予定であります。